

「人との出会いやつながりが、論文を創り上げる力となる」

社会福祉学専攻 原 亜耶(平成 26 年度修了)

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。私は、平成 26 年度に修士課程を修了し、PSW としての仕事の傍ら、引き続き東北福祉大で研究生として研究を続けています。これから修士論文執筆に取り組む皆様に自分の修士論文の執筆過程をお伝えすることで、お役に立てれば幸いです。

(1) 論文テーマと研究方法

私は「電話相談とソーシャルワーク」をテーマに研究を始めました。研究方法は沢山存在します。まず、自分の仮説を適切に検証できるのはどの研究方法だろうか？と考え、最終的には量的研究で進めることにしました。自分の持っている研究フィールドの資源を最も活かせる研究方法は何かを考えていくと良いと思います。

(2) 質問票作成と質問票実施

量的研究は研究デザイン及び質問票の質で決まると言っても過言ではありません。質問票を作ることで 9 割方研究の成否が決まってしまう。質問票の精度をあげるためにまず予備調査を実施しました。協力者を募り、予備調査の質問票は自由記述式の質問で実施し、結果を KJ 法で分類し、本調査の質問票は全て選択式の質問に整えました。質問票による調査は回答者に負担の少ない方が回収率も高くなるので、レイアウトにも工夫が必要です。更に客観性を上げるために、既存の心理尺度なども併用しました。独りよがりの調査にならない工夫が必要です。

本調査の質問票が完成する頃には 8 月も終わる頃でした。調査実施先に依頼を出しプレゼンをします。承認された後に印刷をかけるため更に時間がかかりました(500 部近く印刷しました)。調査研究は費用がかかります。私は研究費用捻出のため、大学からの給付型奨学金獲得を 1 年次の目標にし、2 年次に獲得した奨学金の一部を調査費用に充てました。本調査を実施し回収作業が完了したのは 10 月の終わりでした。

(3) 分析

質問票がしっかりしていれば、分析はそこまで大変ではありません。集計と統計は違いま

す。ただデータを表やグラフにするだけでは量的研究にはなりません。統計ソフトの計算結果は機械的に出力されるため、その値が本当に統計的に意味のある値なのかはよく確認する必要があります。何度も統計法の本を読み直し各種分析や検定について確認しました。

(4) 執筆

分析結果から結論を導き、今まで読んだ文献をまとめ、論文に仕上げるという作業は予想以上に大変でした。12月中旬になり、仕事をしながら執筆時間を確保するのは困難で、通勤中や仕事の合間の時間を活用し、iPhoneに文章を打ち込みそれを自宅のパソコンに送信して帰宅後に文章を編集するといった作業を繰り返し、提出締切1週間前に完成させることができました。

(5) 反省点など

私は1年次に修了要件の単位を全て取得し（給付型奨学金も申請しようとしていたためかなりスケジュールが詰まっていた）、2年次は論文執筆に専念する計画でしたが、結果的にそれでは時間が足りなかったため、文献レビューだけでも1年次にまとめておけば良かったなと思っています。文章を少しずつでも書き溜めておくと後が楽になります。

指導教員である三浦剛先生からの指導は「章立て」「先行研究レビュー」「ソーシャルワーク研究としての視点を明らかにする」の3点でした。私はこの3点がいつも甘く、論文構成が何度も揺らぎました。この3点を意識すると不思議と論文が整理されていきました。修了した今でも三浦先生の教えを常に意識し研究を続けています。論文が揺らぐ点については各々異なるので、自らの弱いところを早目に自覚することが大切です。

(6) 人とのつながりを大切に

修士論文の執筆そのものは孤独な作業ではありますが、たくさんの人達のおかげで論文は成り立っています。調査協力者、先行研究の著者、教員の先生方、同期の仲間、先輩、後輩など、自分の関わった人や物の数だけ自分一人の時にはない視点が生まれます。それらを自らの糧にし、自分だけの論文を書き上げていくことはとても充実したプロセスです。そのような素晴らしい体験を皆様が体験できることを祈っております。どうぞ楽しみながら頑張ってください。